

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 事業名 | 貧困家庭の子どもたちへICT学習支援事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 特定非営利活動法人ITサポート銀のかささぎ 理事長 山越久美子 |
| 事業区分 | 保健、医療、福祉の充実 |
| 事業タイプ | ソフトタイプ |
| 総事業費 | 1,629,746円 (うち支援金: 1,223,000円) |

事業内容

子どもの居場所づくりをしている団体と提携し、長野市で貧困家庭の子どもの学習支援を定期的に行うとともに、学習支援用ポータルサイトを作成し、学習コンテンツの紹介やマニュアルをWeb上で簡単に探すことができる、誰もが学習ボランティアに参加できる仕組みを構築した。また、講演会や講習会を開き、子どもの貧困への関心を高め、広く啓蒙活動を行った。

学習支援には、タブレットなどICT機器を使い、学習に取り組む習慣のない子どもたちのやる気を引き出し、基礎学力をつける効果をもたらした。



【学習支援の様子】

【目標・ねらい】

- 1 貧困家庭の子どもたちの学習する意欲を向上させる。
- 2 地域ボランティアを今までの2倍にする。
3. 地域のつながりや社会の助け合いにつながる効果をもたらす。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 1、貧困家庭の子どもたちの成績：
 - 目標年度 H29 対 H28 比 30%アップ
 - 実績 対 H28 比 50%アップ
- 2、地域ボランティアの数：
 - 目標 年度 H29 対 H28 比 2 倍増
 - 実績 対 H28 比 3 倍強の増加
- 3、地域のつながりや社会の助け合い：
 - 目標 学習支援ポータルサイトの作成
 - ポータルサイトを作成し、講演会で広めた結果、他団体との連携参加者が増え、事業効果を高めた。

※自己評価 【 B 】

【理由】

松代での学習支援を行ったが、ほかの子ども食堂からの要請があり、より多くの場所で活動することが望ましい。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度の取り組みを、貧困家庭の子どもたちへICT学習支援モデル事業とし、他地域への広がりを目指とする。次年度は長野県子ども支援課や長野県みらい基金、及び民間の企業（ソフトバンク）の力を借りて、資金や備品を調達する。県内の子どもの居場所づくりを進めている団体を集めてICT教育支援の事例を発表し、定期的に勉強会を行い、要請を受けた団体へ支援に行く。子どもの居場所での学習支援のネットワークの構築を図りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある